



(題字 小黒千足 学長)

第334号

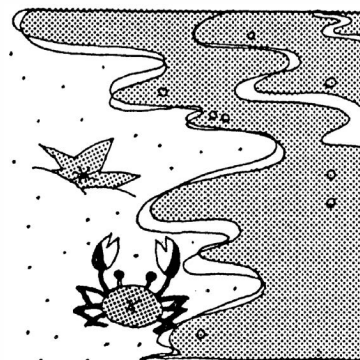
(平成4年6月号)



▲ 平成4年度富山大学永年勤続者表彰式
(平成4年6月1日(月) 事務局大会議室)

目 次

学 内 諸 報	関 係 法 令	13
◆ 平成4年度外国人留学生（新入生） オリエンテーションの実施	諸 会 議	13
3	学 内 規 則	
◆ 平成4年度富山大学永年勤続者の 表彰	◆ 富山大学新教育課程実施委員会 規則の制定	15
4	◆ 富山大学大学院理学研究科規則 の一部改正	16
◆ 就職に関する講演会の開催	海 外 渡 航 者	17
5	職 員 消 息	17
◆ 本学教育学部附属幼稚園が文部省 幼稚園教育課程研究指定校に指定	主 要 行 事	18
6		
◆ 平成4年度富山県内国立学校等事 務職員（初任者）研修の実施		
7		
人 事 異 動		8
8		
学 事		
◆ 平成5年度入学者選抜第2次試験 実施方式・日程等の変更		8
8		
◆ 平成4年度国立大学・学部附属学 校等教官海外教育事情視察派遣者 の決定		8
8		
◆ 平成4年度富山大学国際交流事業 基金による各種事業の採択		9
9		
寄 稿		
海外レポート		
◆ 欧米に所蔵されるガンダーラ美術 の調査		11
11		
—— 人文学部教授 小谷伸男 ——		



雪の立山に大歓声!!

平成4年度外国人留学生(新入生)オリエンテーション

— 平成4年5月16日(土)於. 国立立山少年自然の家 —

富山大学に新しく入学した外国人留学生を対象とした「平成4年度外国人留学生(新入生)オリエンテーション」が、去る5月16日(土)学生部主催で国立立山少年自然の家を会場に実施されました。増加する留学生の受け入れ充実に資するため、会場を学外に移してのオリエンテーションとしては、今回初の企画となりました。



▲ 国立立山少年自然の家で行われたオリエンテーション

このオリエンテーションには、新入学留学生26名、チューター24名及び指導教官等教職員27名、計77名が参加しました。当日は、早朝小雨模様でしたが次第に雲間から青空も顔を出すまざるの天気となり、2台のバスに分乗しての車中では、ガイド嬢の富山の生活と文化の案内に耳を傾け、初めて見る車窓からの富山の景色に目を見張っていました。

国立立山少年自然の家では、増田学生部長、大谷教養部長のあいさつに始まり、引き続き、ユーモア溢れる自己紹介が行われ、和やかな雰囲気となりました。次いで、日本語担当教官から、今後の授業を受ける際のアドバイスなど懇切丁寧にオリエンテーションが行われました。また、同自然の家において、四季折々の立山の30分ビデオ「立山黒部アルペンルート」が上映され、午後からの「雪の立山」見学に一層その思いを強くしていました。

昼食後、同自然の家を後にして、2台のバスは、車窓からの素晴らしい大自然を目の当たりにしながら、開通後間もない「立山黒部アルペンルート」の立山室堂(標高25000m)を目指しました。春山とはいえ未だ冬のたたずまいを見せる「雪の大谷」付近は、積雪10mにも及ぶ雪壁が続き圧巻でした。また、室堂では、実際に雪を手にして我を忘れて子供心ではしゃぎ回る留学生が、自然の偉大さを十分満喫していました。留学生には、このオリエンテーションを通して「富山」が深く印象づけられたものと思われま



▲ 初めての雪の大自然を堪能する留学生(於. 立山室堂)

平成4年度

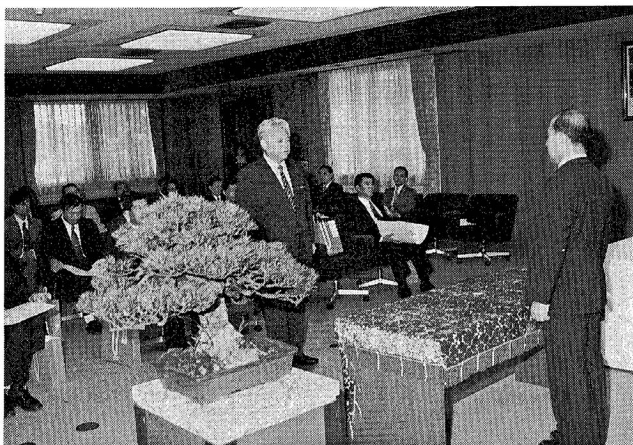
富山大学永年勤続者の表彰

— 35年勤続5名、20年勤続22名 —

平成4年度富山大学永年勤続者表彰式が、去る6月1日(月)午前11時から事務局大会議室において行われました。(表紙写真参照)

表彰式には、各部署局長等多数が列席され、35年勤続及び20年勤続の一人一人に、小黒学長から表彰状と記念品が贈られました。引き続き、小黒学長から、永年勤続をお祝い申し上げるとともに、その間の御労苦に対して感謝いたします。また、多難な大学運営を迫られている現在、更に本学のために御尽力いただきたいと祝辞があり、これに対して、被表彰者を代表して吉原経済学部長から謝辞が述べられました。

閉式後、事務局中会議室において、永年勤続者を囲み祝賀会が催され、永年の労がねぎらわれるとともに和やかな雰囲気の中に表彰式を終了しました。



▲ 永年勤続の表彰に感謝するとともに更に本学発展のため精進したいと被表彰者を代表して謝辞を述べる吉原経済学部長

なお、表彰された方々は、次のとおりです。

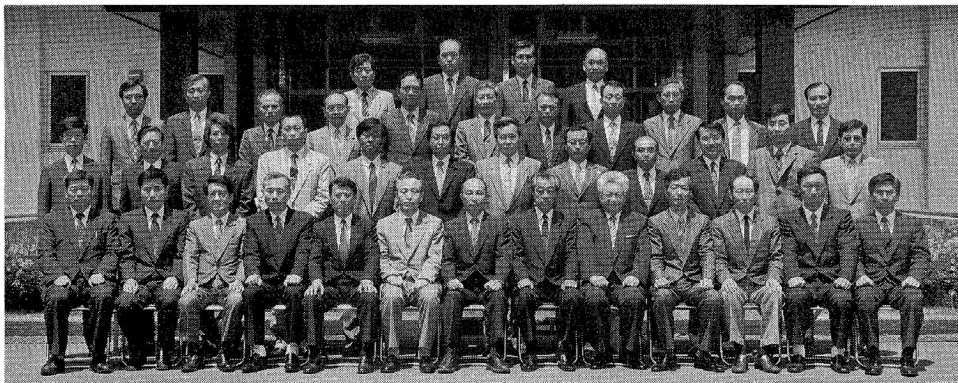
(35年勤続表彰)

学 生 部	文部事務官	中 林 邦 夫
人文学部	文部事務官	本 澤 健 二
教育学部	文部教官	加 瀬 正二郎
経済学部	文部教官	吉 原 節 夫
教養部	文部教官	飯 森 米 蔵

(20年勤続表彰)

庶務部	文部事務官	能 登 功
経理部	文部技官	塚 田 健 夫
施設課	文部事務官	江 藤 憲 和
学生部	文部事務官	保 正 邦 久
〃	文部事務官	泉 田 享 一
〃	文部事務官	柳 田 邦 雄
〃	文部事務官	大 崎 秀 雄
人文学部	文部事務官	東 仙 博 稔
教育学部	文部教官	原 藤 鉄 朗
〃	文部教官	佐 川 慎 吾
経済学部	文部教官	竹 嶋 學 弘
理学部	文部教官	小 嶋 直 雄
〃	文部教官	鳴 橋 一 夫
〃	文部教官	笹 山 和 寛
〃	文部教官	東 金 森 邦 夫
〃	文部教官	川 田 透 夫
工学部	文部教官	水 野 淵 龍 夫
〃	文部教官	山 米 田 政 明
〃	文部教官	宮 腰 隆 隆
附属図書館	文部事務官	山 田 正 芳

以 上



平成4年度就職活動の始動に合わせ

『就職に関する講演会』を開催

去る5月27日(水)午後1時から経済学部201番教室において、本学4年次生を対象として開催された「就職に関する講演会」には、延べ約180名の学生が聴講しました。

当日は、株式会社リクルート名古屋支社事業推進課主任岡本結城氏から、「最新就職情報、企業の選び方、会社訪問の心構え等について」、また、富山県教育委員会教職員課主幹久米敏雄氏から、「教員需給の現況、教員採用制度等について」講演が行われました。会場では、多数の学生が熱心にメモをとったり、それぞれの講演に対して活発な質問をするなど、盛況のうちに終了しました。

なお、平成4年度大学及び高等専門学校卒業予定者に係る就職協定期日については、大学等関係団体及び企業関係団体で構成する就職協定協議会において、次のとおり決定されています。

1. 採用選考開始

8月1日前後を目標として、企業の自主的決定とする。

2. 採用内定開始

10月1日

3. 運用上の順守事項

- (1) 企業等は、採用人員、選考期日、場所等に関する情報を公開する。
- (2) 企業等は、採用活動に当たり学事日程を尊重する。
- (3) 企業等は、拘束をはじめとする不公平な採用活動を行わない。
- (4) 大学や企業等が主催する企業研究会・説明会の開始は、7月初旬以降を目標とする。
- (5) リクルーターとの接触開始は、7月初旬以降を目標とする。
- (6) 大学側の求人票公示日は、7月1日とする。



▲ 経済学部201番教室で行われた「就職に関する講演会」
(平成4年5月27日)

— 本学教育学部附属幼稚園が —

◎◎◎ 文部省幼稚園教育課程研究指定校の指定を受ける ◎◎◎

このたび、文部省は、平成4年度幼稚園教育課程研究指定校として全国で14幼稚園を指定しました。その指定校のうち平成4年度から研究を開始する研究指定校(6園)として、本学教育学部附属幼稚園が指定されました。この指定により、同幼稚園では、その「研究主題」、「研究の概要」及び「研究の重点」を次のとおり策定しています。



▲ 園庭でのびのび遊ぶ子どもたち
(本学附属幼稚園)

研究主題

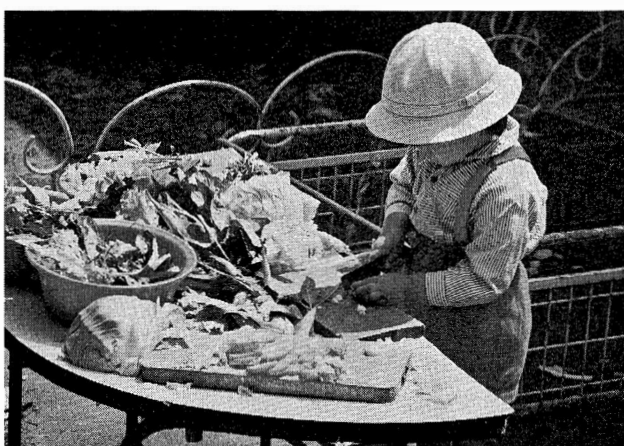
- 3年保育の教育課程について(3年研究)
— 幼児の発達過程に応じた適切な3年保育の教育課程の編成や実施は、どのように行ったらよいか。 —

研究の概要

3年保育課程の入園から修了までの幼児の生活の流れを考慮して、その時期にふさわしい主体的な生活を保障する教育課程の編成について考え、研究を進める。

研究の重点

- 幼児の発達の中核と考えられる主体性の育ちについて、その全容を可能な限り明らかにする。
幼児の主体的な姿を ①自分で考えること、あるいは自分で考えようとする事、②自分で行動すること、あるいは自分で行動しようとする事、③自分で責任を持つこと、あるいは自分で責任を持つようとする事、この3つの要素で捉え、自発性、自主性と主体性の意味するところの違いをはっきりする意味においても、④自分で責任を持つという視点から主体的な姿を明確にしていく。
- 年齢ごとの保育より本質的な特色を明らかにする。すなわち、3歳、4歳、5歳の積み重ねの意味の実質を明確にする。
- まるごとの発達の側面としての各領域に分けて示されているねらいと内容を視野に入れながら、年齢ごとに積み重ねられる経験が一人一人の幼児にとってそれぞれの時期に必要な経験となっていくためには、どのような視点が必要であるかを明らかにする。



▲ 「うさぎさん ごはんだよ」
(本学附属幼稚園)

平成4年度

富山県内国立学校等事務職員（初任者）研修

—— 受講者は3機関14名 ——

平成4年度富山県内国立学校等事務職員(初任者)研修が、去る5月25日(月)から5月28日(木)までの4日間富山大学及び国立立山少年自然の家において実施されました。

この研修は、富山県内文部省機関に勤務する職員のうち、新たに採用等となった者に対して、国民全体の奉仕者としての国家公務員の使命と心構えを自覚させ

るとともに、職員としてこれからの文部行政に共通して必要な職務遂行上の基礎的な知識、技能、態度を養成し、併せて文部省関係機関職員としての一体感を培うことを目的としたものです。

本年度は、3機関から14名が受講し、そのうち本学からの受講者は、12名でした。

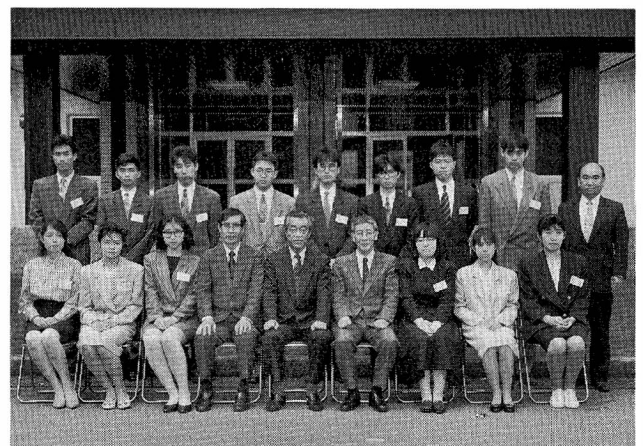
なお、研修日程及び受講者は、次のとおりです。

研修日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
5月25日(月)	開講式 オリエンテーション及び自己紹介 今田 敏	「講話」 国立学校の組織 富山大学庶務局長 佐竹良夫	公務員制度 富山大学人事課長 村山年男	記念撮影 昼食 休憩	(移動) 国立立山少年自然の家へ	オリエンテーション 国立立山少年自然の家(同所職員)	若磐 啓	レクリエーション 自然散策(登山)	入浴 懇親会	宿泊
5月26日(火)	事例研究 富山大学人事課課長補佐 角井利雄		勤務・勤務時間 高岡短期大学庶務課人事係長 酒井利満	昼食 休憩	県内文部省関係機関の見学及び概要説明				富山大学 若	
5月27日(水)	文書業務 富山大学庶務課文書係長 松井博文	国立学校会計事務 富山大学経理課課長補佐 森井 正	入試制度 富山大学入試課入学試験係長 杉森伸平	昼食 休憩	県内文部省関係機関の見学及び概要説明				富山大学	
5月28日(木)	共済組合制度 短期給付 長期給付 富山大学経理課給与係長 河上 孝 富山大学人事課給与係長 堀口 勲	留学生制度 富山大学学生課留学生係長 柳田邦雄	図書館業務の概要 富山大学附属図書館事務長 奥村喜代志	昼食 休憩	職場における応接 富山大学庶務課専門職員 紀登 功			アンケート質疑応答 富山大学人事課職員係長 杉本周平	閉講式	

受講者

富山大学	学生課	杉田 昇
"	人文学部・理学部	岩城 稔
"	"	松田 信和
"	"	川成 淳也
"	"	金森美枝子
"	教育学部	寺島 裕一
"	"	市橋希代子
"	経済学部	垣見 篤
"	工学部	本澤 誉子
"	"	青木 茂徳
"	"	沼田 高志
"	附属図書館	川崎 綾子
高岡短期大学	庶務課	鍋嶋 美希
富山工業高等専門学校	学生課	井澤真由美
		以上 14名



▲ 富山大学事務局前で記念撮影

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
採 用	4.5.6	藤井 友美		事務補佐員（教育学部）
	4.5.15	村井由美子		臨時用務員（学生課作業員）
	4.6.1	伊藤 勇		” （工学部 ” ）
休 職	4.5.21	須田 雅彦	文部事務官（教養部）	国家公務員法第79条第2号により休職にする

学 事

平成5年度における入学者選抜試験の実施方式・日程等の変更

経済学部「夜間主コース」が分離・分割方式へ

去る5月15日(金)開催の平成4年度第3回評議会において、「平成5年度入学者選抜第2次試験の実施方式・日程等」の一部変更が審議され、経済学部「夜間主コース」がこれまでの連続方式・B日程から、次のとおり分離・分割方式に移行することになりました。

このことに伴い、教育学部中学校教員養成課程（連続方式・A日程）以外は、すべて分離・分割方式での実施となります。

なお、この変更については、去る5月18日(月)に公表されました。

経済学部「夜間主コース」の入学者選抜第2次試験の実施方式等

(旧)

○ 連続方式	募 集 人 員
B日程 経済学部 「夜間主コース」	
経済学科	20
経営学科	20
経営法学科	20
計	※1 60

(新)

○ 分離・分割方式	募 集 人 員	
	前 期	後 期
経済学部 「夜間主コース」		
経済学科	16	4
経営学科	15	5
経営法学科	15	5
計	※2 46	14

※1 募集人員60名には推薦入学、社会人特別選抜の募集人員（各20名程度）を含む。
 ※2 募集人員46名には推薦入学（20名）、社会人特別選抜（20名程度）の募集人員を含む。

平成4年度国立大学・学部附属学校等教官海外教育事情視察派遣者の決定

所 属 ・ 職	氏 名	派 遣 期 間	主 視 察 国
附 属 中 学 校 教 諭	永 田 眞 理	平成4.10.23 ～ 平成4.11.16	アメリカ合衆国 ドイツ フランス

平成4年度富山大学国際交流事業基金採択者一覧

○ 第2種招へい事業（A）（遼寧大学）

受入れ教官			招へい期間	招へい研究者		研究課題
部局	氏名	職名		氏名	所属・職名	
人文学部	小澤 浩	教授	4.9.1～ 4.11.29(90日間)	畢小輝	哲学系副教授	日本近現代哲学思想の研究

○ 第3種外国留学への奨学事業

氏名	性別	所属学部(研究科)・学科(専攻)	指導教官	留学先	留学期間
横川 和子	女	人文科学研究科 日本・東洋文化専攻 2年	三寶政美 教授	中国	平成4.9.5 ～平成5.7.20
唐木 暁美	女	人文学部 語学文学科 4年	三寶政美 教授	遼寧大学(中国)	平成4.9.1 ～平成5.4.30

○ 第3種外国人留学生への奨学事業

氏名	性別	国籍	所属(学年)	滞在期間
林志盛	男	台湾	経済学研究科企業経営専攻(2)	平成3.4.1～平成5.3.31
林明秋	男	台湾	経済学研究科企業経営専攻(2)	平成3.4.1～平成5.3.31
任伶伶	女	中国	工学研究科化学工学専攻(1)	平成4.4.1～平成6.3.31
鄭廷棟	男	台湾	工学研究科化学工学専攻(1)	平成4.4.1～平成6.3.31
藍建華	男	中国	経済学部経営学科(4)	平成元.4.1～平成5.3.31
紅雨	女	中国	経済学部経済学科(3)	平成2.4.1～平成6.3.31
歐陽俊傑	男	香港	経済学部経営学科(3)	平成2.4.1～平成6.3.31
DON HUU HANH	男	ベトナム	工学部機械システム工学科(3)	平成2.4.1～平成6.3.31
田培丹	女	中国	人文学部人文学科(2)	平成3.4.1～平成7.3.31
董国偉	男	マレーシア	経済学部経済学科(1)	平成4.4.1～平成8.3.31
高熙寧	男	中国	経済学部経営学科(1)	平成4.4.1～平成8.3.31
蘇添業	男	マレーシア	経済学部経営学科(1)	平成4.4.1～平成8.3.31
楊慧娟	女	中国	経済学部経営学科(1)	平成4.4.1～平成8.3.31
蕭浩倫	男	中国	工学部機械システム工学科(1)	平成4.4.1～平成8.3.31
TAN BOON GI	男	マレーシア	工学部機械システム工学科(1)	平成4.4.1～平成8.3.31
朴鍾鈺	男	韓国	工学部機械システム工学科(1)	平成4.4.1～平成8.3.31
劉子文	男	マレーシア	工学部機械システム工学科(1)	平成4.4.1～平成8.3.31

平成4年度富山大学国際交流後援会事業採択者一覧

○ 外国人留学生への宿舎費補助

氏 名	性別	国 籍	所 属 (学年)	滞 在 期 間
林 志 盛	男	台 湾	経済学研究科企業経営専攻 (2)	平成3.4.1～平成5.3.31
林 明 秋	男	台 湾	経済学研究科企業経営専攻 (2)	平成3.4.1～平成5.3.31
紅 雨	女	中 国	経済学部経済学科 (3)	平成2.4.1～平成6.3.31
CHAN KEAN HAN	男	マレーシア	経済学部経済学科 (2)	平成3.4.1～平成7.3.31
蘇 玉 華	女	台 湾	経済学部経営学科 (2)	平成3.4.1～平成7.3.31
TIONG ROBERT NGOK HUNG	男	マレーシア	工学部電子情報工学科 (2)	平成3.4.1～平成7.3.31
金 承 駿	男	韓 国	工学部機械システム工学科 (2)	平成3.4.1～平成7.3.31
董 国 偉	男	マレーシア	経済学部経済学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
羅 佰 堅	男	マレーシア	経済学部経済学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
郭 顕 錦	男	台 湾	経済学部経営学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
TAN LIE CHOON	女	マレーシア	経済学部経営学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
陳 秀 琴	女	台 湾	経済学部経営学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
葉 麗 莉	女	台 湾	経済学部経営学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
楊 志 剛	男	マレーシア	経済学部経営学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
林 君 怡	女	台 湾	経済学部経営学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
林 建 金	男	マレーシア	工学部電子情報工学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
朴 鍾 銑	男	韓 国	工学部機械システム工学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
劉 子 文	男	マレーシア	工学部機械システム工学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
林 友 照	男	マレーシア	工学部機械システム工学科 (1)	平成4.4.1～平成8.3.31
王 衛 東	男	中 国	経済学部研究生	平成4.4.1～平成5.3.31



寄稿 海外レポート

欧米に所蔵されるガンダーラ美術の調査

人文学部教授 小谷 仲男

私は、長年にわたりガンダーラ仏教美術の歴史背景について研究している。過去に幾度かアフガニスタン、パキスタンでガンダーラ仏教遺跡の発掘調査の経験を持つ。ガンダーラ仏像は、姿がギリシア・ローマ、心がインドという、不思議に東西文化が融合した美術作品である。ヨーロッパ人がガンダーラ美術を再発見し、競って蒐集し始めたのは1830年代にさかのぼる。なかでもインドを植民地化しつつあったイギリス人が遺跡を乱掘して、めぼしい彫刻を骨董品として本国へ持ち帰った。そのひとつ、1852年にジャマルガリ遺跡で発掘されたガンダーラ・コレクションは、当時ロンドンの大博覧会のためにガラスと鉄骨のみで建設された水晶宮に展示されていて、1866年に建物とともに焼失してしまった。

世界各地に散らばったガンダーラ彫刻の多くは、遺跡のどこから、どのようにして発見されたかという記録をほとんど残さない。それどころか出土した遺跡すら知られていない。歴史資料としての価値が大半奪い去られている。私たちが掘り荒らされた遺跡を、まるで落穂ひろいのように苦心して発掘調査しているのもそのためである。



▲ 頭を欠いたガンダーラ仏像
(パキスタン、ラーニガート遺跡発掘(1986年))

現在、欧米にどの程度の数のガンダーラ彫刻が所蔵されているか、正確には誰にもわからない。しかし、主要なもの、珍しいものは既に研究の対象として紹介され、またカタログに記載されているので、

今回の調査旅行では、そうした資料にじかに接することを目的とした。メトロポリタン美術館(ニュー・ヨーク)、大英博物館(ロンドン)、ギメ博物館(パリ)、ドイツ国立博物館インド美術(ベルリン)を調査地を選び、またブリュッセル、ウィーンにはガンダーラ美術、クシャン古銭学の研究者がいるので、立ち寄る計画をたてた。最初の訪問先であるメトロポリタン美術館では、常設展示品のほか、ちょうど1987年新収のインド・ガンダーラ美術特別展(The Samuel Eilenberg Collection)の開催中に当たり、貴重な資料を実見し、写真撮影することができた。次の訪問先の大英博物館には、約700点のガンダーラ彫刻が所蔵されていた。大英博物館東洋部にはガンダーラ美術研究者のW.Zwalf氏があり、親切に迎え入れてくれた。同氏は、我々日本隊がパキスタンでガンダーラ仏教寺院址(ラーニガート遺跡)を発掘調査中(1984, 86, 89)に見学に訪れたことがあり、旧知の間柄であった。Zwalf氏はちょうど大英博物館所蔵のガンダーラ彫刻すべてについて詳しい目録を作成し、印刷に付する直前の段階にあった。彼が地下倉庫で原稿と実物との最終照合する際、私も同行して実物資料に接して調査できるように取り計ってくれた。必要な写真は博物館のフォートグラフィック・サービスを通して入手できた。なお、大英博物館のコイン・メダル部門には古銭学の研究者のJ.Cribb氏があり、彼に対しては、我々がパキスタン、ガンダーラ寺院址で発掘したクシャン貨幣の写真を示して意見交換をすることができた。Cribb氏が大英博物館所蔵品に基づいて作り上げたクシャノ・ササン貨幣の編年研究は、その精緻さでは目下のところ最新のものに思え、日本で入手し難い同氏の論文抜刷数編をもらい受けた。大英博物館には以上のほかに、A.Stein氏が中央アジア探検から将来した仏教美術や中国仏教美術遺品が所蔵されているが、あいにくそれらを一般展示する東洋館が改装工事のため当分閉鎖中であり、ごく一部分しか見ることができなかったのは残念であった。

次にフランスに渡り、パリのギメ博物館を訪ねた。

ここにはA.Foucher氏が集めたガンダーラ彫刻、フランス考古調査団のアフガニスタンにおける仏教美術発掘品、及びP.Pelliot氏の中央アジア探検の将来品(壁画、彫刻など)がある。しかし、ここでもインド、ガンダーラ室が改装工事で閉鎖中であった。私の場合、同博物館のガンダーラ美術研究者J.Tissot氏の案内で改装中の室内に入り、ガンダーラ彫刻の調査と主要なものの写真撮影を行い、またガンダーラ美術の編年などについて、種々意見を交わすことができた。アフガニスタン出土品については、かつてアフガニスタンのカーブル博物館でその半分を見ているので、いまここでその半分を実見でき、長年の希望をかなえることができた。博物館外では、コレジ・ド・フランスの教授G.Fussman氏を訪ねて、我々の発掘したカロシュティ碑文の解読について意見を聞く機会を得た。



▲ 新収のガンダーラ菩薩頭部
(メトロポリタン美術館)

ブリュッセルでは、王立歴史美術博物館と同市に所蔵されるガンダーラ美術遺品(個人蔵を含め)を調査することができた。次のウィーンではちょうどイースター休暇とぶつかり、博物館の開館日時が大幅に変更され、戸惑うことが多かったが、なんとか滞在中に予定の見学を果すことができた。

最後のベルリンでは、郊外にあるダーレムのインド美術館を訪れた。館長であり、インド美術考古学の研究者であるM.Yaldiz氏に面会し、いろいろと研究の便宜を図っていただいた。地下倉庫には約500点のガンダーラ彫刻が収蔵されており、私の予想以

上の数であった。館長の説明では最近も収集を続けているということである。なお、ダーレムのインド美術館は、Le Coq調査隊の中央アジア、キジール仏教石窟壁画のコレクションを持つことで有名である。壁画の展示は完璧ともいえるほどに見事になされており、また、地下倉庫には階上の展示と同じほどの量の壁画が、研究者の観察に最適の条件で保存されていた。私は、1990年夏にキジール石窟を現地調査しているの、ガンダーラ美術とあわせて調査研究させてもらい、満足した気持ちで今回の調査旅行を締めくくることができた。

さて、欧米で二ヵ月過ごしたというものの、イギリスで三週間、残りの五ヵ所はそれぞれ一週間程度の滞在であるから、生活体験を語るにはあまりにも短い旅行で、ごく皮相的な印象しか残っていない。最近、欧米人から日本人は働き過ぎるとよくいわれる。働き過ぎて、安い製品をどんどん輸出するのはルール違反であるという。確かに欧米の研究者たちも土、日曜をしっかりと休む。博物館の多くは月曜を休館にするので、私が彼らと何か約束をとりつけるのは、たいてい火~金曜日である。私の旅行スケジュールを聞いて、もっとゆっくり滞在して研究しなさいと忠告してくれた学者もいた。最後のベルリンのターレム・インド美術館のことだが、地下倉庫にあるたくさんのガンダーラ彫刻を前にして、ノートを片手にスケッチや記録をしていた。既に老眼の年令で、遠視用のメガネもかけたり、はずしたりしているうちに、手から滑り落ち、石の床の上で無残にも壊れてしまった。美術館の帰りにベルリン市内の大きなメガネ店に入り、レンズの交換を頼んだ。店員は各国の製品カタログのなかから、やはり日本製が一番よいと勧めてくれた。私のメガネ枠はたまたまドイツ製であったが…。しかしその日は金曜日で、閉店まじかであった。店員は土、日曜は職人が働かないし、レンズを取り寄せて、できあがるのは火曜か、水曜になるという。水曜(4月29日)は、もう日本行き飛行機のなかだから、残念ながら不自由なままで帰らざるを得なかった。

富山へ帰着したのが5月1日(金)で、連休も控えていることなので、すぐにメガネ店にでかけた。さすがに便利な日本だけあって、翌日(土)にはできあがった。メガネを受け取るとき、念のために連休も開店していますかと尋ねると、開けているという。「よく働きますねえ」とおもわず声に出してしまっ

た。しかしよく考えてみると、ドイツで見積もってもらったのと同じの製品が2～3割高かった。メガネ枠は一、二年前だが、ドイツでいわれたより、二倍ほどの値段で買っている。メガネのことだけで結論するのは性急すぎるかもしれないが、私は単純にこう考えた。日本人はよく働き、土、日曜日も店を閉めない。当然、人件費、経営費もかさみ、物の値段にもはねかえってこよう。日本人はお互いにあくせく働き、かえって生活費を高めているのではないか。働かずに豊かな生活をつくりだす方法がある！

これが欧米人の生活スタイルのひとつかと思う。帰国そうそう大学の土曜閉庁にぶつかり、少々めんくらったが、これが真にゆとりある生活につながるようにと期待したい。

〔 筆者は、平成3年度文部省在外研究員(短期)として、平成4年3月1日から同4月30日までの間、「ガンダーラ美術資料の調査研究」のため、連合王国ほかヨーロッパ諸国及びアメリカ合衆国へ外国出張されました。〕

関 係 法 令

(法 律)

- 国立学校設置法及び国立学校特別会計法の一部を改正する法律(37) 5. 6

(政 令)

- 国家公務員宿舎法施行令の一部を改正する政令(181) 5. 15

(省 令)

- 日本体育・学校健康センター法施行規則の一部を改正する省令(文部22) 5. 1

- 国家公務員宿舎法施行規則の一部を改正する省令(大蔵26) 5. 15

(告 示)

- 日本育英会法施行令の規定による試験所又は研究所として指定した件(文部71) 5. 15
- 日本育英会法施行令の規定による研究所等を指定した件(同72) 5. 15
- 平成4年度学校図書館司書教諭講習実施要項を定める件(同75) 5. 18
- 平成4年度における学芸員の資格認定を実施する件(同77) 5. 21

諸 会 議

平成4年度第2回評議会(臨時)(5月1日)

(審議事項)

- (1) 大学改革について
- (2) その他

平成4年度第1回情報処理センター運営委員会(5月7日)

(議 題)

- (1) 平成5年度概算要求の内容の変更について

第4回事務組織等検討委員会(5月11日)

(議 題)

- (1) 大学教育改善に係る事務組織等の在り方について
- (2) その他

平成4年度第1回入学試験実施委員会(5月12日)

(審議事項)

- (1) 平成5年度富山大学入学者選抜試験の実施に伴う基本方針(案)について
- (2) 平成5年度富山大学入学者選抜実施教科・科目等について
- (3) 平成5年度富山大学入学者選抜個別学力検査実施教科・科目等について
- (4) 平成5年度富山大学入学者選抜試験日程について
- (5) 平成5年度富山大学入学試験実施委員会各専門委員会委員について
- (6) 平成4年度富山大学説明会並びに高等学校進路指導教諭との懇談会について

平成4年度第1回入学試験委員会（5月12日）

（審議事項）

- (1) 平成5年度富山大学入学者選抜試験の実施に伴う基本方針(案)について
- (2) 平成5年度富山大学入学者選抜実施教科・科目等について
- (3) 平成5年度富山大学入学者選抜試験日程について
- (4) 平成5年度富山大学入学試験実施委員会各専門委員会主任委員について
- (5) 平成4年度富山大学説明会並びに高等学校進路指導教諭との懇談会について

平成4年度第1回体育施設運営協議会（5月14日）

（議 題）

- (1) 土曜閉庁に伴う体育施設の使用について
- (2) その他

平成4年度第1回職業補導担当者会議（5月14日）

（審議事項）

- (1) 全学就職説明会について
- (2) その他

平成4年度第2回授業料等減免選考委員会（5月14日）

（議 題）

- (1) 平成4年度前期分授業料免除者の選考について
- (2) その他

平成4年度第1回保健管理センター運営委員会（5月15日）

（審議事項）

- (1) 当面する問題について
- (2) その他

平成4年度第2回補導協議会（5月21日）

（審議事項）

- (1) 第37回大学祭について
- (2) その他

平成4年度第1回保健管理センター委員会（5月21日）

（議 題）

- (1) 平成5年度歳出概算要求について
- (2) その他

平成4年度第3回附属図書館商議会（5月21日）

（審議事項）

- (1) 大型コレクションの要求について
- (2) 図書館の開館時間延長について
- (3) ビデオ学習センターの図書館利用について
- (4) 富山大学附属図書館利用規則の一部改正について

平成4年度第1回学園ニュース編集委員会（5月22日）

（審議事項）

- (1) 第76号学園ニュースの編集について
- (2) 第77号学園ニュースの発行について

平成4年度第1回新教育課程実施委員会（5月26日）

（議 題）

- (1) 新教育課程の編成について
- (2) その他

平成4年度第1回施設整備委員会（5月26日）

（議 題）

- (1) 平成5年度国立学校施設整備費概算要求について
- (2) その他

平成4年度第2回大学教育改善検討委員会（5月28日）

（議 題）

- (1) 答申の具体化について

平成4年度第1回公開講座委員会（5月28日）

（議 題）

- (1) 高等教育振興財団の助成について
- (2) その他

平成4年度第1回組換えDNA実験安全委員会（5月29日）

（議 題）

- (1) 委員長の選出について
- (2) 組換えDNA実験計画について

学 内 規 則

富山大学新教育課程実施委員会規則の制定

富山大学新教育課程実施委員会規則の制定理由

本学における4年一貫の教育課程の実施について具体的検討を進めるため、富山大学新教育課程実施委員会を設置し、それに必要な事項を定める。

富山大学新教育課程実施委員会規則を次のとおり制定する。

平成4年5月15日

富山大学長 小黒 千足

富山大学新教育課程実施委員会規則

(設 置)

第1条 富山大学(以下「本学」という。)に、本学における4年一貫の教育課程の実施について具体的検討を進めるため、富山大学新教育課程実施委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 教育方針に関する基本的事項
- (2) 教育課程の編成及び履修方法に関する基本的事項
- (3) 全学に共通する授業科目等に関する授業計画・時間割等の全学的調整
- (4) その他必要な事項

(組 織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 各学部長及び教養部長
- (3) 各学部及び教養部の教務委員長
- (4) 各学部及び教養部の教官 各1名
- (5) 学生部長

2 前項第3号及び第4号に掲げる委員は、学長が委嘱する。

(任 期)

第4条 前条第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委 員 長)

第5条 委員会に委員長を置き、学長をもつて充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を行う。

(議 事)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立する。

2 議事は、出席委員の過半数をもつて決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(部 会)

第8条 委員会は、必要があると認めたときは、部会を置くことができる。

(庶 務)

第9条 委員会の庶務は、学生部入試課において処理する。

附 則

この規則は、平成4年5月15日から施行する。

富山大学大学院理学研究科規則の一部改正

富山大学大学院理学研究科規則の改正理由

平成4年4月、国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部改正に伴い、理学研究科の基礎となる理学部数学科に新設講座として「情報数理」が設置されたため、理学研究科数学専攻に、平成4年4月から「情報数理」講座を加え、教育研究の充実を図る。

富山大学大学院理学研究科規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成4年5月15日

富山大学長 小黒 千足

富山大学大学院理学研究科規則の一部を改正する規則

富山大学大学院理学研究科規則（昭和53年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

別表中

数学専攻	代数学及び 幾何学	代 数 学 特 論 I	2	○印は必修	
		" II	2		
	解 析 学	幾 何 学 特 論 I	2		
		" II	2		
		関 数 解 析 学 特 論 I	2		
		" II	2		
		複 素 解 析 学 特 論 I	2		
		" II	2		
	数 理 統 計 学	実 解 析 学 特 論 I	2		
		" II	2		
		数 理 統 計 学 特 論 I	2		
		" II	2		
		関 数 方 程 式 特 論 I	2		
		" II	2		
	応 用 解 析 学 及 び 電 子 計 算 機 論	応 用 解 析 学 特 論 I	2		
		" II	2		
		数 値 解 析 学 特 論 I	2		
		" II	2		
			○ゼ ミ ナ ー ル		4
			○数 学 特 別 研 究		18

を

数学専攻	代数学及び 幾何学	代 数 学 特 論 I	2	○印は必修
		" II	2	
	解 析 学	幾 何 学 特 論 I	2	
		" II	2	
		関 数 解 析 学 特 論 I	2	
		" II	2	
		複 素 解 析 学 特 論 I	2	
		" II	2	
	数 理 統 計 学	実 解 析 学 特 論 I	2	
		" II	2	
		数 理 統 計 学 特 論 I	2	
		" II	2	
		関 数 方 程 式 特 論 I	2	
		" II	2	
	応 用 解 析 学 及 び 電 子 計 算 機 論	応 用 解 析 学 特 論 I	2	
		" II	2	
		数 値 解 析 学 特 論 I	2	
		" II	2	
	情 報 数 理	情 報 数 理 学 特 論 I	2	
		" II	2	
情 報 シ ス テ ム 特 論 I		2		
" II		2		
		○ゼ ミ ナ ー ル	4	
		○数 学 特 別 研 究	18	

に改める。

附 則

この規則は、平成4年5月15日から施行し、平成4年4月10日から適用する。

海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	工学部	助教授	小原 治樹	ドイツ	第10回電気加工国際シンポジウムに出席及び講演発表を行う他	4.5.4 ～ 4.5.9
	工学部	教授	宮下 和雄	アメリカ合衆国	SID国際会議にて研究発表と情報収集 他	4.5.16 ～ 4.5.25
	工学部	講師	岡田 裕之	〃	〃	〃
	理学部	助教授	庄子 仁	デンマーク	北極圏における大気-雪氷間相互作用とその変動の研究のため	4.5.6 ～ 4.9.1
	人文学部	助教授	大工原ちなみ	連合王国 アメリカ合衆国	ユダヤ系作家研究	4.5.23 ～ 5.3.22
	教育学部	講師	向後 千春	タイ	国際協力事業団技術協力の実施に係る専門家派遣のため	4.5.24 ～ 4.6.7
海外研修	教育学部	教授	松川 三郎	中モ ン ゴ ル	樹脂の染色仕上げへの応用に関する講演と共同研究の打合せ	4.5.7 ～ 4.5.21
	教養部	助教授	石川 義和	フ ラ ン ス ス ペ イ ン	重い電子系及び酸化物超電導体の実験的研究	4.5.17 ～ 4.11.24
	経済学部	助教授	長谷川 隆	連合王国 ドイツ	イギリス原状回復法及びドイツ不当利益法に関する調査、文献収集を行う	4.5.27 ～ 4.6.8
	経済学部	助教授	澤野 雅彦	カナダ アメリカ合衆国	第9回パン・パシフィック経営会議に参加し、研究発表を行う、及びカナダ・アメリカ合衆国進出日本企業の教育・訓練に関する調査	4.5.30 ～ 4.6.17

職員消息

《住所変更》

教育学部

附属小学校教諭
(国語)

吉田 人史

文部事務官

(学務係)

寺林 忠男

工学部

文部技官
(工場係)

山田 聖

《住所表示変更》

工学部

教授
(生産システム工学)

教授 時澤 貢

主 要 行 事

本 部

- 5月1日 第2回評議会（臨時）
- 6日 名古屋工事事務所管内国立学校等施設担当
部課長連絡会議（於：名古屋大学）
- 7日 学内共通経費要求説明聴取
第1回情報処理センター運営委員会
- 8日 中部地区学生補導厚生研究会第36回総会
（於：京都パストラル）
- 11日 第4回事務組織等検討委員会
- 12日 第1回入学試験実施委員会
第1回入学試験委員会
- 14日 平成4年度国立大学事務局長会議（於：学
士会館）
第1回体育施設運営委員会
第2回授業料等減免選考委員会
第1回職業補導担当者会議
- 15日 第1回大学院委員会
第3回評議会
- 16日 新入生（留学生）オリエンテーション（於
：国立立山少年自然の家）
第44回北陸地区国立大学体育連盟運営協議
会（於：金沢大学）
- 19日 文部省共済組合主管課長会議（於：麴町会
館）
- 20～21日 平成4年度国立大学経理部課長会議（於：東
京医科歯科大学）
- 21日 第2回補導協議会
- 22日 第1回大学入試センター試験富山地区連絡
会議
第1回学園ニュース編集委員会
- 25日 第1回新教育課程実施委員会
概算要求学内説明聴取
- 25～29日 平成4年度富山県内国立学校等事務職員初
任者研修
- 26日 第1回施設整備委員会
- 26～31日 第37回大学祭
- 27日 就職に関する講演会
- 28日 第1回公開講座委員会
平成4年度東海北陸地区国立大学学生部長
会議（於：名古屋大学）

- 28日 第2回大学教育改善検討委員会
第2回入学者選抜方法研究委員会専門委員
会

人 文 学 部

- 5月6日 学部将来計画委員会
- 7日 学部入学者選抜方法検討委員会
- 8日 学部補導委員会
- 11日 学部将来計画委員会
- 12日 学部将来計画委員会及び予算委員会合同委
員会
- 13日 学部教育実習委員会
教授会
教授会（人事）
- 19日 学部将来計画委員会
学部将来計画委員会及び予算委員会合同委
員会
- 20日 教授会
学部球技大会
- 21日 次期教務委員会委員打合せ会
- 21～22日 第36回国立17大学人文系学部長会議（於：
山口大学）
- 27日 学部入学者選抜方法検討委員会
- 28日 学部将来計画委員会

教 育 学 部

- 5月6日 学部職業補導委員会
- 8日 拡大学院将来計画委員会
- 12日 教育実践研究指導センター運営委員会
- 13日 大学院設置準備委員会
教授会
人事教授会
学部教務委員会
- 15日 持回り学部補導委員会
平成4年度幼稚園教育課程研究指定校連絡
協議会（於：文部省）
- 19～20日 附属小学校研究発表会

- 22日 紀要編集委員会
 27日 学部教務委員会
 第38回附属学園合同運動会
 30日 全国国立大学附属学校連盟正・副校園長会
 総会・校種別部会（於：お茶の水女子大学）
 31日 全国国立大学附属学校連盟・連合会合同会
 （於：お茶の水女子大学）

経済学部

- 5月1日 学部職業補導委員会
 6日 学部教務委員会
 人事教授会
 教授会
 経済学研究科委員会小委員会
 11日 学部教育改善検討委員会
 13日 学生定期健康診断
 経済学研究科委員会
 夜間主コース運営委員会
 14日 日本海経済研究所運営委員会
 15日 学部教務委員会（持回り）
 学部補導委員会（持回り）
 20日 教授会
 21日 係長会議
 25日 学部補導委員会
 27日 学部入学方法検討委員会
 28日 学部補導委員会（持回り）

理学部

- 5月1日 学科主任会議
 教育改革等検討委員会
 8日 学部補導委員会
 13日 教授会
 理学研究科委員会
 人事教授会
 19日 学部案内編纂委員会
 20日 教育改革等検討委員会
 27日 第9回国立15大学理学部事務長会議（於：
 高知大学）
 28～29日 平成4年度国立15大学理学部長会議（於：
 高知大学）

工学部

- 5月1日 学部運営委員会
 係長連絡会
 6日 教授会
 工学研究科委員会
 8日 学部欧文概要編集委員会
 13日 学部運営委員会
 学部教務委員会・補導委員会合同委員会
 20日 学部運営委員会
 教授会
 専任教授会
 学部概要編集委員会
 21日 学部補導委員会
 25日 北信越工業教育協会富山県支部幹事会

教養部

- 5月1日 図書委員会
 教授会（臨時）
 将来計画委員会
 7～8日 全国国立大学教養(学)部長会議（於：徳島
 大学）
 8日 将来計画委員会
 11日 教授会（臨時）
 13日 教授会
 教務委員会
 20日 CL教室運営委員会
 補導委員会
 将来計画委員会
 22日 教授会（臨時）
 25日 教授会（臨時）
 26日 将来計画委員会
 27日 紀要委員会
 特昇その他給与に関する委員会
 推薦委員会
 教授会（臨時）
 29日 将来計画委員会

附属図書館

- 5月11日 係長連絡会
 18日 係長連絡会
 21日 第3回附属図書館商議会
 21日 富山県図書館協会定期総会（於：富山県立図書館）
 22日 消火訓練及び非難訓練実施
 25日 平成4年度国立大学附属図書館事務部課長会議（於：東京医科歯科大学）

地域共同研究センター

- 5月14日 文部省関係者視察
 15日 地域共同研究センター運営委員会

保健管理センター

- 5月1日 X線撮影（学部女子）
 6日 健康診断（人文学部・理学部）
 7日 X線撮影（学部女子）
 8日 X線撮影（学部女子）
 11日 X線撮影（学部男子）
 13日 健康診断（経済学部）
 15日 保健管理センター運営委員会
 18日 X線撮影（学部男子）
 20日 健康診断（工学部）
 21日 X線撮影（学部男子）
 25日 X線撮影（教養部女子）
 26日 X線撮影（教養部女子）
 全国大学保健管理協会東海・北陸地方幹事会（於：名古屋大学）
 27日 X線撮影（教養部男子）
 28日 X線撮影（教養部男子）

平成4年度国家公務員安全週間の実施について

期 間 平成4年7月1日(水)～7月7日(火)

趣 旨 各省庁、各機関が災害の根絶を期すために、安全管理に関する施策の充実、安全意識の高揚及び安全活動の定着を図り、職員の安全を確保することによって、公務能率の向上に資することを目的として行うものである。

本年度の標語

安全な職場の管理は あなたが主役

安全週間中の実施事項

1. 交通安全に対する意識の高揚
2. 庁舎内外の整理、整とん
3. 危険設置、危険物、機械設備等の点検整備
4. 放射性物質取扱い施設の点検整備

編 集 富山大学庶務部庶務課
 富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
 富山市住吉町1丁目5-18
 電 話 (24) 1755(代)